

第1回 Web オープンキャンパス(6/14) 学科相談コーナー Q&A

幼児教育保育学科

Q1 学科で取得できる資格を教えてくださいませんか？ 【HP】取得できる資格、主な就職・進学先

A1 幼稚園教諭Ⅱ種免許状、保育士資格の両資格、そしてレクリエーションインストラクター資格が同時に時に取得できます。レク資格は、「心の元気づくり」をキャッチフレーズに、レクリエーションとよばれる「楽しいこと」「充実すること」を通して人と人とのふれあい、育ちを支援する保育者に必要な学びがあると考え、養成しています。

ただ、昨年まで取得可能であった「司書資格」は、2021年入学生から取得できなくなりました。

Q2 図書館司書の資格は必ず取れますか？ 【HP】「図書館司書」資格の取得

A2 ごめんなさい。残念なのですが、来年度幼児教育保育学科入学生から、司書資格取得のための受講カリキュラムが受けられなくなります。他の学科・専攻においてはこれまで通り、受講できるのですが、申し訳ありません。なお、取得希望があれば、卒業後に科目等履修生という制度を活用した資格取得の方法もあります。

Q3 保育園以外に就職する人もいますか？ いればどんなところに就職しますか？

【HP】取得できる資格、主な就職・進学先

A3 グラフにもありますが、90%程度は資格を活かした専門職に就きます。とはいえ、資格取得＝専門職に固執するのも考え物ですね。自分のキャリアを真剣に考え、10%程度はその他の職種についています。事務、営業など職種に限定されることはありません。子供服や文房具、書籍、おもちゃ販売などを手掛けるメーカーや販売店などは、学びの内容を活かしたその他の職種といえるでしょう。

Q4 ピアノは今から習っておいた方がいいでしょうか。

A4 入学時点で「初心者」の学生は4割に達しますが、卒業までに、大学が求める最低限度の力(歌唱教材の弾き歌い、両手伴奏等)を手に入れていきます。その初心者の学生たちの多くは入学前に特別なことをしてきていません。本学の学習課程にある音楽の基礎に関わる授業(音楽Ⅰ、Ⅱ)やそれにとまなう週1回の個別レッスンを通して、学生の学習経験にあわせて支援していきます。

とはいえ、ピアノだけでなく、入学前の学習は入学後の余裕のある学びにつながるの間違いありません。例えば、楽譜を読むことができれば、入学後にスムーズにピアノレッスンをスタートできると思います。高校の音楽の先生に楽譜の読み方を教えていただくことができればトライして。

Q5 ピアノの個人レッスンがあると書いてありますが、どんな感じで教えて貰えるのですか？

【学科パンフ】

A5 1年次は週1回10分程度の個人レッスンの時間が確保されています。学生の学習経験にあわせて丁寧にレッスンをします。事前課題が示され、自己学習し、1週間後の個別レッスン時にその課題達成度をチェックし、次なる課題提示とポイントレッスン、という感じでしょうか。気づいてもらえたと思いますが、各自の「反復練習」が求められ、まさに意欲と努力が能力獲得のカギであることをお忘れなく。(半年で、「たなばたさま」「こぎつね」等の歌唱教材が弾けるようになります)

Q6 敷地内に附属こども園があることに魅力を感じます！実習以外にも関わりはありますか？

【学科パンフ】

A6 教育、保育実習はもちろん、平素の授業の実践や研究の場として協力してもらっています。

1年次前期の教育実習後、ボランティアとして附属こども園の日常的な預かり保育に携わることもできます。また、長期休業中に実施される「お泊り保育」「七夕まつり」「運動会」などの行事の運営スタッフとして保育経験を重ねる学生も多いです。敷地内に附属こども園があるメリットですね。

Q7 教育実習では附属こども園以外にも自分の希望する園に行くことはできますか？【学科パンフ】

A7 教育実習は、1年次、2年次に、2回実施されます。

はじめの教育実習(1年次)は、大学と連携した保育を行っている附属こども園で、全員が実習を行い、子どもたちの生活を理解し、職務を体得することを目指します。その後、夏休み等を利用して、ボランティア等を継続することが可能。

また1年前期の実習ですので、まずは実習に耐えうる「規則正しい生活」や「体調管理」ができるのかどうかを確認し、2年間の学びの方向性を見極めてほしいと考えています。

2回目の教育実習(2年生)では、基本的には地元の幼稚園で実習を行います。実習先は、希望制というより、自宅から近い幼稚園での実習となります。自宅周囲の環境を自分で調べ、近くにどのような園があるのかを知ることも大事な学びとなります。また、実習に集中するための環境づくり(周囲の支援が得られやすい)という点への配慮でもあります。

教育実習のほかに保育実習も3回予定されていますが、こちらは地元の保育園とともに、児童養護施設、乳児院、障害児者支援施設などの社会福祉施設での実習です。トータルで5回、9週間の実習を経験することになります。

Q8 子どもは好きですが、関わり方が分かりません。そのあたりも学んでいきますか？

A8 そうですね。地域の中で幼い子どもと触れ合う機会が少なくなっていること、また家族の単位も小さくなり、家族・親族間でもその機会は減る一方ですから、体験的な理解を手に入れている学生の方が少ないですよ。

手とり足取りというわけにはいきませんが、大学での学びで子どもたちの発達の様子や特徴などを理解したり、授業内外での他の学生との関係づくり等を通して、「触れ合うためノウハウ」を会得していったりすることになります。

初めての实習で「子どもと関われなかった」という本人談、指導者の声もあるのも事実ですが、自己の現状理解の機会となって、その後、変わっていく姿が見られます。可能ならば、本学の環境を活かし、放課後等を活かして、附属こども園のボランティア(預かり保育)に参加するのも策ですね。これからですよ。

Q9 体力に自信がありません。大丈夫ですか？

A9 現場で働く保育士さんに対して同じ質問をすると、多くの方が「体力」と答えてくれます(保育技術等は後からでもなんとでもなる。。「体力」には、筋力や持久力、運動能力の側面「行動体力」と、病気やケガ、心理的なストレスから体を守る「防衛体力」の2つあるといわれますが、保育士さんの回答は特に後者を指しているように思います。子どもたちへの適切な支援はもちろん、保護者との関わり、同じ職場の仲間との関係、自分の家庭や生活のことなど、様々なストレスに耐えるための「保育者体力」(近藤命名)は必須ですね。

Q10 入学までに身につけておいた方がいいことがあれば教えてください。

A10 ピアノの能力、運動能力、絵画や工作のような図画工作などの力が求められるのは事実ですが、入学後に準備されている学習課程ではこれらの基礎から学びをスタートさせますので、事前に特別な能力を身に付けてくることを求めることはありません。

将来の目標(自分の将来の姿)に向かって、学びを続ける意欲を持った自分、困難に負けず努力出来る自分、を作ってきてください。そのためには、高校3年間の学びをしっかりと修めてきてください。